

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念「家庭的な雰囲気にならびに脳活性化訓練を取り入れ、地域での共同生活を行い、楽しく、明るく、ときめきを感じて心の若返りを目指します。」と明文化し、地域との連携を図り、楽しい生活を提供することを目指している。また、理念に基づくスタッフ心得を朝礼時読み上げている。	○ “地域密着型”のホームとして、地域行事の参加や、協力体制を整えていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時のオリエンテーションで理念の説明をしている。事務所に掲示し、常に意識して実践できるよう心がけている。	○ 地域の中でその人らしく暮らしていける支援方法を提案していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	一般道路と面した入り口に、行事案内パンフレットを掲示したり、行事案内パンフレットを近隣に配っている。	○ 当ホームの立地条件から、地域との交流ができていない状況にあるが、認知症サポーター講習も企画し、地域に理解を求めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設周辺は田畑・工場地帯で、ホームの存在を認識しにくい場所ではあるが、歩道脇にフラワープランターを置き、季節ごとに植え替え道行く人に楽しんで頂いている。水遣り時に挨拶を交わし、少しずつではあるが、交流が出来つつある。	○ 芝生庭園、菜園、玄関には自販機、テーブル、椅子もあり、地域との交流を進めていくなかで、散歩中の近隣の方がホーム内まで、立ち寄れるようなホームを作りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の特養と合同の夏祭りで地元の方々と交流している。また、ボランティア団体の来訪、中学生実習生の受け入れも行う。	○ ホームから出て、地域活動に参加できる機会をもちたいと考えている。近隣に住むスタッフの情報を入れたり、子供さんにも、遊びに来ていただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者との交流はすくないが、地域の高齢者の方々に役立つ情報発信の場でありたいとは常々思っている。	○	施設として、何か役立つことがないか考え、少しでも地域の方々と接する機会をつくりたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議・勉強会等で説明し、改善に向けて日々研鑽している。	○	常に満足することなく、課題を見つけて取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者様へのサービス提供報告をし、話し合いで意見は、出来るだけ、サービスの質の向上に活かしていけるよう努めている。	○	報告のみで終わることなく、今後内容の充実を図っていけるよう努める。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの指導を真摯に受け止め、より一層のサービス、質の向上に取り組んでいる。	○	日頃より、担当者との連携を図り、相談、アドバイスを頂いている。事故報告書は市のフォーマットを使用必要時には報告し、再発防止につとめている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、外部研修によって学ぶ機会を持ち、必要な方に対しての対応を行っている。	○	職員全員が学ぶ機会をもち、必要なとき活用できる体勢を整える。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束や、人権については常々意識し、職員全体が、自覚し、虐待防止に努めている。	○	外部・内部研修を通して学び、虐待防止が継続できるよう努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	双方の納得の上、入居して頂き、退去時には不安や、疑問点がないように配慮を心得る。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	ホーム便りのお知らせを充実させていく。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	業務担当委員(美化、レクリエーション、衛生、ガーデニング、行事、食事)の意見を業務に速やかに対応する。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	要望に迅速に対応できる環境を整備する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ異動を少なくし、家事都合等で離職の場合は馴染みの関係が保たれるようにしている。	○	ホームだよりでお知らせしている。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修が受講できる体制をとっている。また、会議の場でも勧めている。	○	新人職員は、併設の特養施設新人研修に参加している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	担当地域の包括支援センター交流会に参加している。	○	同法人「グループホームすまいる」との職員の交流会を行ったり、法人外のネットワーク作りにも意欲的に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間・場所の確保や法人内クラブ活動、スポーツジム利用の斡旋もしている。	○	診療所受診は勿論のこと、法人内で針灸治療、あんまマッサージ、カイロプラクティックの受診も可能。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員と面談で勤務状況の把握に心がけ、職員が向上心を持てるよう努めている。	○	資格習得意欲を高め、資格習得に向けて全面的にサポートできる体制を整備している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人同伴で見学に来ていただく事もあり、利用が決まれば、自宅へ伺い、生活のご様子や、不安やご希望を伺い安心してご入居いただける体勢をとっている。	○	早期に顔なじみの関係を築くために、法人内のデイサービス、ショートステイとの交流回数を増やしたり、行事を共に行う。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	可能な範囲の情報を得て、家族様が納得される為に必要な時間を取りながら相談を受けている。	○	不安を少しでも軽減できるように相談を受け付けている。(ホーム長)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや見学及び申込み時、状況を判断し選択できるような内容のアドバイスをしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス・ショートステイ利用若しくは見学(体験)を通して徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者様と一緒にコミュニケーションをとりながら掃除・調理・洗濯物たたみ等をし、園芸活動・熱帯魚飼育等、また、クラブ活動にも参加されている。また、レクリエーションの場では普段見られないような良い表情をされている。そのことが、職員の励みにもなっている。	○	全利用者様にときめきや、やりがいを感じてもらえるよう努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に暮らせない状況にある利用者様に、寄り添えるようなケアを心がけている。	○	入居後、利用者様とご家族の気持ちが離れてしまわないように、職員間で話し合い支援していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族様の都合の良い時に面会をして頂いたり、利用者様の要望があれば、状況を判断した上で家族様へ連絡を取っている。	○	行事等、ハガキを利用者様でできる範囲で案内を出していただき、ご家族様と一緒に参加して頂く。定期的に絵手紙等で、近況報告を利用者様の手で出せるように支援して行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力も得ながら、入居まえに暮らしておられた地域の老人会に毎週参加されている。また、施設内においても落ち着ける場所とか馴染みの人との関わりに配慮している。	○	馴染みの知人や友人・行きつけの場所など過去の関係を把握し、来ていただいたり出かけていく等の機会をつくっている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士が交流できる居間において、馴染みの関係が作れるよう支援している。	○	外出は気の合うご利用者さま同士で楽しく、出かけられるよう支援している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の家族様の相談も受けるようにしている。	○	退所後、ボランティアに来ていただけるご家族様や、故人の自叙伝を作成、ホームに寄贈していただいたりしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での様子や利用者様とのコミュニケーション等により一人ひとりの思い、望みの把握に努めている。	○	職員全員がご利用者様一人一人の思いや意向について関心をもち、把握するよう心がけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接記録、各機関の情報、ご本人とのコミュニケーション等により、把握につとめている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活情報を職員間で共有し、お一人ひとりに合った過ごし方が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回ユニット会議を開き、利用者様お一人ひとりについて居室担当から、課題・ケアの仕方を提案・討議し、本人様・家族様の意見も合わせて介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者様に変化が生じた場合本人様・家族様・関係する方々と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	利用者様が望まれる暮らしについて、何が必要か常に配慮できるよう努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は、電子ノートに記録し、個別特記事項は個々の利用者申し送り帳に記録しています。また、月一回のユニット会議において、個々のケアについて話し合い、介護計画の見直しに活かしている。	○	状況の変化がないようでも、毎日新鮮な目で見直しできるよう心がける。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、受診や入院の回避・早期退院の支援・医療処置を受けながらの生活の継続、また、重度化した場合や終末期は、家族様と相談し柔軟な支援をこころがけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設の特養施設との協力体制は行えている他、運営推進会議により民生委員・自治会との交流、避難訓練による消防署他レクリエーションを通してのボランティア等から協力が得られている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容・訪問歯科・訪問リハビリ・訪問販売等、各利用者様の意向や必要に応じて支援している。		ホームでマッサージを受けることを楽しみにされているご利用者様もいらしゃる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターと協力している。	○	認知症の人を地域で支えるために、地域の情報や協力が得られるよう関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所への受診支援と外部専門病院への紹介による受診支援を行っている。	○	家族様の希望を聞き、特に外部受診への支援には配慮を払う。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設診療所の内科医は、認知症に詳しく、職員が相談したり利用者様の診断や治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設診療所と連携及び支援体制の協定をしており、毎日、朝夕には各利用者様の健康状態について申し送りをし、指示を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された後、面会に行き、本人様のご様子を伺ったり病院関係者との情報交換をし、早期に退院できるように努め、また、受け入れ態勢を整えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調不良・入院等をきっかけに重度化すると、できるだけ早い段階でかかりつけ医と連携をとり、本人様及び家族様と話し合いを持っている。	○	ご本人ご家族様の思いを把握し、全職員が、終末期に向けた方針について、共有できるように努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当ホームでの「出来ること・出来ないこと」を、医療関係者との情報交換・職員との話し合いを持ち、チームでの支援が出来るよう検討を重ねている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入・退居時前後、家族様との相談や福祉・医療情報の交換等を行い、できるだけ利用者様の負担が少なく済むよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した個々の対応を心がけています。その場で気付いた時には随時指導を行い、また、職員会議のなかで、勉強会及び周知徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常のコミュニケーションをとる中で、献立・レクリエーション・役割(日課)等において利用者様の意見をお聞きし、取り入れるよう心がけている。	○	新人職員・パート職員を含む全職員が、プライバシー確保について常に具体的に認識しあうよう心がける。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活パターンを把握し、できるだけ利用者様のペースで過ごして頂いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を利用し、本人様の希望をお聞きし、更衣時は、好みの服を選んで頂ける様心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、クックチルを使用したり、行事食はスタッフが企画して提供している。又、おやつも利用者様の好みにも配慮し、手作りおやつを提供している。	○	常に、利用者様に喜んで頂ける食事提供を考えていく。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各利用者様から希望の物をお聞きし、季節の旬のもの「うなぎ」や季節の食べ物「そうめん」お酒類・ジュース類手作りおやつ等を楽しみにして頂けるよう提供している。	○	季節に合わせた食材を楽しんで頂いているが、他にも提供できることをスタッフ、利用者で考えていく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各利用者様の排泄記録を電子ノートに記載して把握に努め、一人ひとりに合った支援を行っている。	○	加齢に伴う排泄機能の低下に対し、一人一人の残存能力を活かした支援をしていきたい。おむつを使用しない介護を目指す。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ希望の日・時間に合わせています。職員体制や浴場の広さの制限もあるが、最低でも二日に一度入浴できるよう支援している。また、希望により入浴剤を利用し、入浴を楽しんで頂いている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室は全て個室になっています。居間では、座り慣れた場所で寛がれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性の方でも調理が得意な方には、野菜切りや盛り付けをほぼ毎食ごとにされていたり、洗濯物たたみ・掃除・その他園芸活動・クラブ活動は、要望により対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入用な時は事務所で預かりしている小口現金からお出し、使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・気分転換のドライブ等、個別に対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望の訴えがなかったり、うまく表現できない入居者様でも、日常の会話の中から読み取れるよう心がけ、ご家族にもお伝えしている。	○	家族様とも相談しながら、利用者様の残存能力を活かした小旅行などの計画が実現できるように取り組んでみる。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	廊下に公衆電話を設置している。希望があれば、職員が電話をかけたり、手紙を書く援助をしている。	○	夏祭りに暑中見舞いもかねて案内状を出した。ご家族にクラブ活動で製作してしおり・押し花をお渡しし、喜んで頂きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	深夜・早朝以外は面会時間を決めず、いつでも気軽に来訪でき居室若しくは居間で過ごして頂ける。	○	面会にこられた皆様にご生活の様子等ご説明したり、会話が弾むように話題を提供させて頂き、ご家族だけで過ごせる配慮も考え、時間が許す限り頂けるように、一層配慮していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回の職員会議のなかで、勉強会をもち「身体拘束」について学び、また、利用者様のケアについてモニタリング・アセスメント時にも拘束になっていないか確認をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居様が自由な生活が出来るよう居室・日中の玄関に鍵をかけないようにし、夜間の居室も本人様が鍵をかけられる以外は、施錠はしていない。		外扉の鍵は開放している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ほぼ全員の方が居間で過ごされており、居室で休まれている方も、食事・お茶・排泄時等で所在を把握することができる。また、夜間も定時巡視以外でも訪室し様子観察している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室で使われるハサミ・針等は、日中職員の見守りのなかで使用して頂き、使用しない時や夜間は事務所で預っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ユニット会議で、事故報告書の事例をもとに利用者様一人ひとりについて検討を重ねている。また、事故発生時に備え、連絡網の点検・整備を行い、常に対応できるよう努めている。	○	ヒヤリハットの報告の推進と学習会をもち、事故に繋がらないようなケアを心がけ、また、事故発生時に備え的確な対応が出来るよう職員に徹底していく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月一回の職員会議・ユニット会議を利用し、応急手当・救急器具の使用法等初期対応（AEDの取り扱いを含む）の訓練をしている。	○	AEDの使用法講習会を実施した。全職員がマスターでき、その場で活用できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣に民家が無い場所に立地している為、当グループホーム独自で避難訓練をし、隣接する特養施設に協力が得られるよう要請している。		災害時、食料備蓄を行っている。賞味期限を確認の上、入れ替えをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会を通して、ヒヤリハット・事故報告書等の説明をし、ホームの方針に理解が得られるよう、また、より良い解決法を見い出せるようにしていきたい。	○	家族様、面会時には近況報告を兼ねて、今後起こりえるリスクについては、説明させて頂いている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入浴前・体調不良時のバイタル測定をローテーション勤務者へ申し送り、医療連携を結んでいる隣接診療所からの支持及び対応で緊急時の対処をしている。		併設診療所の看護師に昼夜2回ご様子を報告し、体調変化の早期発見に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬効能表を職員が見える場所に設置し、必要な時は利用者様の処方箋と一緒に確認でき、臨時薬に対しても配慮できるよう心がけている。また、配薬も一人ひとりの薬箱に分け、複数の職員が関わることにより服薬が正確に出来るよう努めている。	○	再度、誤薬の無いように、服薬時にはお名前呼びかけ、薬名を呼応確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックをして、一人ひとりの排便パターンを知り、予防と対応のための飲食物を食事や中間食に取り入れ、また、役割活動や余暇時間の散歩等運動が出来るよう働きかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは毎食後行っており、利用者に合わせた援助をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量は、電子ノートに記入して管理し、便秘対策や、カルシウム摂取も心がけている。	○	毎日、新鮮な食材が、配達され、栄養管理された、福祉メニューを導入している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成して職員の見やすい場所に設置し、実行している。ノロウイルス発生時には緊急対応出来るように保管している。	○	感染予防の研修に参加し、知識を深めているが、一層、予防につとめる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒に対する予防及び対応マニュアルを作成して、職員の見やすい場所に設置し実行しています。調理時にはビニール手袋を使用している。包丁、まな板は用途によって使い分けている。	○	毎日、新鮮なものを調理し、作り置きをしないようにしている。今後、スタッフ全員が、食品衛生講習会などに参加し、食中毒予防に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路前の玄関に季節の花のプランターを置き、インターホンでドアが開き、エレベーターにて一階敷地まで下りると、玄関までの進入路両側にプランターを並べて長いす・テーブルを設置している。前は広い芝生庭園があり、自動販売機も設置明るい雰囲気ホーム作りを心がけている。	○	利用者様や家族様などの感想や意見を参考にしながら、玄関周りや建物周囲の工夫を行っていくよう心がけている。お香を焚かせて頂いたり、ハーブのアロマ効果を利用した庭園を考えている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には天窓があり採光に配慮しています。テーブルや洗面台に季節の花を生けたり、壁面のコルクボードや玄関に行事の案内・参加時のご様子写真、利用者様の作品を展示している。	○	季節に合わせて、風景写真を掲示し、話題づくりを提供しているが、他にも提供出来ることを考えていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナー・廊下を利用して椅子・小テーブルを置いて、スペース作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や生活用品を持ち込 んで頂き、また、誕生日などプレゼント類を飾り、 利用者様が居心地よく過ごせるよう心がけてい る。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	ホーム内に湿・温計を設置し、安定した湿度・温 度調節を行うよう心がけている。また、換気に関 しても一日一回程度、居室・館内の空気の入替 えをしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	トイレは居室に近い場所に三ヶ所あり、居間の中 央にテーブルを配置して利用者様がゆったりと通 ることが出来るスペースがある。洗面台は、各居 室にあります。居間にある広い洗面台も利用で きる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	カレンダーに行事計画を書いたり、トイレの場所 や居室のタンスに入っている物の表示等、日常の 生活の場で残存機能を活用できるよう心がけてい る。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ハーブガーデニング、季節の花、野菜を育ててい る。ベランダに長いす・テーブルを設置し、外気 浴をしながら、皆様が歌を唄ったり、スタッフと 共にプランターの花の植え替え・菜園作りに参加 されている。	○	野外での食事会(BBQ)等を楽しんで頂いているが、 一層多く気分転換をして頂く機会を作っていく。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・食事は、福祉メニューを取り入れ、利用者様にも手伝っていただきながら配膳している。また、当施設の畑の収穫物も、行事食提供時、食材に利用している。
- ・施設敷地内の芝生庭園を利用して、四季に応じた野外調理（バーベキュー等）を行い、利用者の皆様一緒に歌を唄ったり、日光浴も同時に行なっている。
- ・平屋のユニットを利用して、1ユニットで閉じこもっているだけでなく、相互に行き来し、ラジオ体操を行ったり、利用者間での交流を行うことで、フロア空間を有効に利用している。
- ・併設診療所と医療の連携をし、健康管理に努めている。
- ・利用者様一人ひとりの個別支援はもちろんの事、日々の生活のご様子を毎日記載し、月単位の介護記録を家族様に送付し、家族意見も取り入れながら、より支援内容を充実させ、サービスプランの計画を立てている。
- ・外出支援、行事計画を多く企画させて頂いている。
- ・何かご不安な点・ご不満な点がある場合には、苦情受付をさせて頂き、市や地域包括の意見も取り入れさせて頂き対応させて頂いている。